

平成29年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	沿岸南部教育事務所	学校名	大船渡市立末崎中学校	TEL	0192-29-3926
------	-----------	-----	------------	-----	--------------

「いわての授業づくり3つの視点」を明確にした授業改善

【今年度の目標】

国語	①読み取りの領域の正答率を県平均と同程度とする。 ②資料を読み取り、根拠を示し、自分の考えを書く問題の無解答率を0に近づける。
数学	①各領域、各観点ともに県平均以上を目指す。 ②数学的表現を用いた記述問題の無解答率を30%以下にし、正答率40%以上を目指す。
社会	①全体の正答率が50%を超えることを目標とする。 ②資料活用による記述問題の無解答率を0に近づける。
理科	①科学的な思考・表現の観点別正答率で、県平均と同程度を目指す。 ②物理領域の正答率で県平均と同程度を目指す。 ③知識・理解の観点別正答率は現時点での状況(51.3%)を維持する。
英語	①英作文に関わって、ある条件の下に1文、2文、さらに3文で表現する取り組みを継続して正答率を前年度より上げていく。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 「いわての授業づくり3つの視点」を明確にした授業改善を目指し、全教員で実践を行った。
- 学力分析を行い、課題を重点化・焦点化し、事後指導の充実を図った。
- 学力保障に関わる取り組みを家庭に情報発信した。

【具体的な取組】

- 「いわての授業づくり3つの視点」を明確にした授業改善を目指し、全教員で実践を行った。

- 視点を明確にして日常の授業実践を行い、指導案の中にも「いわての授業づくり3つの視点」を明記した。
- 参観の視点を明確にした一人一授業の実践を行った。

		(4) 展開		
	【学習の見通しを持つことのできる学習課題】	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 【授業づくりの3つの視点】	評価
導入 (10分)	・学習課題と活動内容を理解させることで集中力を高めさせることができた・学びの目標や目的を意識できるようになってきた。	1 前時の振り返りをする。 2 本時の学習課題の確認をする	○5問テストを行う。【学習の振り返り】:前時の振り返り ・震度 ・震源 ・初期微動 ・主要動 ・初期微動継続時間 【学習の見通し】 ・学習課題を把握させる。	
展開 (30分)	【学習課題を解決するための効果的な学習活動】 ・学習形態の工夫により個々の考えが授業に反映されやすくなった・個人の考えを広げることにつながった・積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が見られるようになった。	3 課題を予想する 4 実習1の説明を聞く 5 実習1を行う 6 結果から分かった事を確認する	・地震が震央からどのように伝わっていくのか、予想させる。 【学習の見通し】 ・実習の手順を明確にし、何をどのように作業するのかをしっかりと把握させる。 【問題を解決するための活動】 ①個人で考える ②班で意見を交流する ③班の意見を全体で交流する ・個人で考える	○評価 比例分配法を理解し、等発震時曲線を書く事ができる。【課題・観点・ワークシート】
終末 (10分)	【学びを実感できる学習の振り返り】 ・学習内容の定着につながった・学んだことやわからなかったこと、次時以降につながることも含めた振り返りができるようになった・その時間の学習の必要性も明確になった。 ～教師振り返りより～	7 まとめ 8 コンピュータのシミュレーションから、震央を予想する 9 次時の予告 ・地震のゆれにはなぜ初期微動と主要動があるのだろうか。	・震源で発生した地震の波は、震央を中心にした同心円状に伝わっていく。 ・震度の分布も震央を中心とした同心円状になる事が多い。 【学習の振り返り】 ・プリントのまとめの欄の記入をさせる。 ・チェック用紙の記入をさせる。 ・震央の位置を各地点のゆれはじめの時刻から予想させる。	○評価 実習で作成した図と波紋の図がともに同心円状である事から、地震波は一点から同じ速さで伝わる事に気づく。【課題・観点・ワークシート】

③ 校内研究会の充実を図った。

- ア 3つの視点にそってワークショップ型の研究会を行い、研修を深めることで次への意識化を図った。
- イ 授業参観カードを活用し、参観の視点（学習の見通し・効果的な学習活動・振り返り）を明確にした。
- ウ 各教科の取組等について研修室の黒板を活用し、取組状況を共有した。
- エ 校内研究会の中で、授業者自身の「振り返り」を設定し研修の充実を図った。

授業参観カード

平成

「授業参観カード」は、校内授業研究会・一人一授業で活用し、研究会もその視点にそってワークショップ型で行った。

《研究主題》

基礎・基本の定着を目指した授業改善
～授業づくりの3つの視点を生かした授業を通して～

《参観の視点》（※気付いたこと等メモするのにご活用下さい）

【視点1】学習の見通しを持つことができる「学習課題」であるか

1	生徒の興味関心を高め、かつ明確な学習課題であるか	授業でグループワークに生徒が主体的に取り組んでいて、授業で「見通し」が明確に示されているように感じた。
2	課題解決に向けて生徒が学習活動の見通しが持てるものであるか	生徒がグループワークで課題を解決するために必要な知識やスキルを事前に学習していたように感じた。

【視点2】学習課題を解決するための学習活動であるか

3	「学習課題」を解決するための手立てが効果的に組まれていたか	自ら→グループ→全体という流れで、視覚的にも状況が分かるように工夫されていたように感じた。
4	課題解決に迫るための学び合い・グループ学習の取り入れ方は適切であったか	与への心情のように、本堂に各教科についてグループで話し合うことで、お互いが学び合えるような雰囲気を感じた。

【視点3】学習の振り返りで学びを実感できているか

5	振り返りの手法は適切であったか	振り返りに書く内容について指示を出して、学びたい内容を挙げてもらうことで、生徒が学びの過程で何を学んだのかを振り返ることができた。
6	本時の学習内容が生徒に定着していたか	コメントをみて、毎時振り返っていた。

【参観の感想】

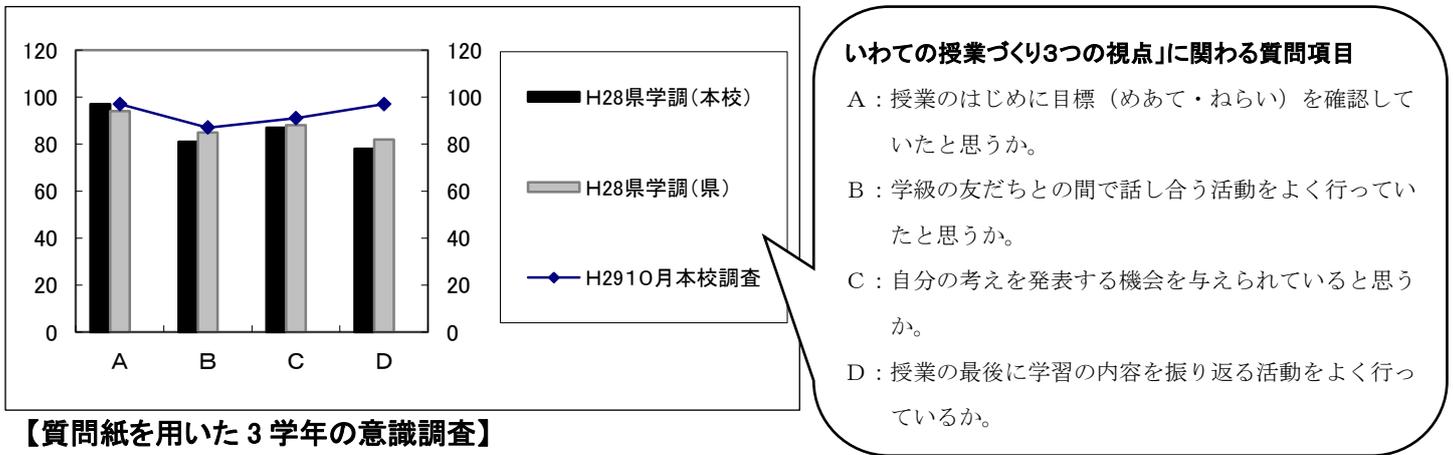
生徒が授業の進め方、板書が定まっている様子などを想像させて、いかに的を射ることが困難かを考えさせていた。また、毎一かど置かれていた状況も良かった。グループの中では自分の意見を言えなかったり、争いにおこまれている場面もあった。生徒にとって「対決」は重要な場面を伺った。

授業参観シートの活用は、授業者・参観者双方の振り返りに有効であった。

各教科の振り返りシート

④ 生徒の実態を図るために、学習に関する全校意識調査を実施した。

昨年度実施の県学調では、Aの項目を除き、県と比較して下回る結果であった。しかし、今年度10月実施の本校調査の結果を見ると、どの項目においても昨年度同時期を上回る結果であった。今年度、各教科の授業の中で3つの視点について意識的に取り組んだ成果と思われる。特にD「振り返りの活動」についての質問は、昨年比で19ポイントアップしている。なお、1、2年生の質問紙結果も同様に概ねポイントが上がっており、成果が見られた。質問紙の分析を通し、今後取り組む必要がある課題は「自分で計画を立てて勉強していますか」という項目で、どの学年も50%前後であった。



(2) 学力分析を行い、課題を重点化・焦点化し、事後指導の充実を図った。

「NRT」「新入生学調」「全国学調」「県学調」の結果を受け、分析を行い、学び直しが必要な指導内容と、指導場面、検証方法について、各教科で計画を立てた。

諸調査の小問分析と結果の活用

① 小問分析による、各教科において、主に学び直しが必要な指導内容

国語	読み取り（1～3年） 要約（2年） 漢字（1～3年）
社会	資料活用（1年） 基本事項の知識（1～3年）
数学	数式で表す（1～3年） 図形や関数も含めた数量関係の知識（1～3年）
理科	粒子領域（1～3年） エネルギー領域（1～3年）
英語	自己表現（2、3年） 前置詞・be動詞（2年） 単語連語・適語補充（3年）

② 指導場面とその検証の結果

ア 漢字の書き取り（2年国語）

NRTで出題された小学校での既習漢字が弱かったので、夏休み中の課題として、「小学校で学習した漢字」の復習に取り組みさせた。検証は2年生の県学調の小学校で学習した漢字で検証した。

『NRT（3問の平均）47.0% → 2年県学調（3問の平均）67.7%』

イ 小テストの活用（3年数学）

全国学調のA問題で正答率がよくなかった図形、確率の問題に焦点を当て、授業の始めに小テストを実施。「なぜ、その答えになったのか」「どのようにして求めたのか」を自分で説明できるように指導した。小テストは全国学調と異なる問題で行い、検証は全国学調と同じ問題を使用した。

a コンパスを使った平行四辺形のかき方と平行四辺形になるための条件

『4月 39.3% → 10月 46.2%』

b 確率を求める **『4月 67.9% → 10月 76.9%』**

ウ 記述式問題の工夫（1年社会）

NRTでは資料から読み取る記述問題で無解答が多かったので、資料を読み取る視点を考えさせ、根拠を持って記述することを繰り返し指導した。徐々に何を読み取ればよいかわかる生徒が増え、8月の整理テストでは無解答率が低くなった。他教科でも、記述式問題をテスト等に出題する機会を多くし、授業の中で根拠を持って書くよう指導することによって無解答率が減ってきた。

『NRT（2問中の無解答率）45% → 8月整理テスト（2問中の無解答率）9%』

(3) 学力保障に関わる取り組みを家庭に情報発信した。

① 校報・学年通信など各種通信を通して、学校での学習取組や指導状況について保護者に伝える工夫を行った。

「見通し・課題解決のための学習活動・振り返りは従来から大切にされてきた要素だが、学力向上のためにこれらの要素をより確かなものにしていきたい」と今年度の本校の研究テーマについて、授業研究会の様子と共に、保護者の方々にもわかりやすい言葉で発信 **【校報】**

見通し・学習活動・振り返り

7月7日(金)、今年度1回目の授業研究会が、行われました。対象学年は3年生で教科は数学。布田貴先生と権元将人先生による、習熟度別の授業です。単元は「2次方程式」(懐かしい・・・)で、その導入部分の授業でした。

本校では、研究主題(先生方の研究テーマ)を「基礎・基本の定着を目指した授業改善 ～授業づくりの3つの視点を生かした授業を通して～」として、日々の授業改善に向けて研究・研修を進

② 生徒会主催で、小中連携し、共通の課題となっていた「メディアコントロール」の啓発活動を行い、家庭にも発信した。

メディアコントロール

～ 正しく使うためのルール～

- ① 夜9時以降には使わない
- ② 自分の部屋では使わない
- ③ 食事中・勉強中には使わない
- ④ テスト前3日間には使わない
- ⑤ フィルタリングを必ずする
- ⑥ 約束を破って取り上げられても甘まわらない

学区小中連携して取り組んだ「メディアコントロール」の生徒作成ポスター。小中連携交流会を5月・11月に実施。各種調査の分析を受けた取組内容等について意見交換した。



【成果】

(1) 各教科の目標達成状況【2年生県学調の結果から】

国 語	<p>① 「読み取り」領域は県比 102.7 と概ね良好であった。授業の中で登場人物の言動を表す描写に着目させたり、場面の展開を根拠としたりし、指導の工夫を行った。</p> <p>② 正答率 95.2% (県比 150.3)、無解答率 3.2% と非常に良好な結果で、取組の成果が顕著であった。要点をまとめる学習を單元ごとに取り入れたり、意図的に書かせる活動を設けたりした。</p>
数 学	<p>① 各領域、各観点すべて県比 100 を超えることができた。既習事項の小テストを授業の中に取り入れ、生徒に説明させる指導をした。</p> <p>② 自分の言葉で記述する問題(4問)の無解答率は 14.5%、正答率は 69.3% であった。授業で生徒が説明する機会を多くし、テストで自分の言葉で記入する問題を数題入れるようにした。</p>
社 会	<p>① 正答率 65.8% (県比 105.3) であった。授業の中で、視覚的に訴える教材(表や図)を利用した。また、確認問題プリントを配布し小テストを行った。</p> <p>② 資料活用における記述式問題(3問)の無解答率は 10.8%、正答率は 47.3% であった。授業のまとめを自分の言葉でまとめることができるよう段階的に指導を行ったり、資料を読み取る視点を与え、根拠を持って記述させたりした。</p>
理 科	<p>① 「科学的思考・表現」の正答率は50.9% (県比115.1) で県平均以上だった。学習プリントやレポートの記述・授業の中で、理由や原因を書くような指導を行った。</p> <p>② エネルギー領域の正答率が50.7% (県比118.5) で県平均以上だった。教科課題で復習しながら小テストを実施した。</p> <p>③ 「自然事象についての知識・理解」の正答率は 58.3% (県比 119.6) で、目標を達成することができた。授業で復習をし、小テストで確認をした。</p>
英 語	<p>① 英作文(4問)の正答率は 27.4% (県比 120.5) であった。テストで英作文の問題を出題したり、自己表現活動を行ったりした。</p>

(2) その他

- ・ 第1回校内研究会の中で「全国学力・学習状況調査」の国語B問題・数学B問題を全教員で解いてみる時間を設定し、その後指導主事に「現在求められている力」について指導助言をいただくことで、見通しを持って今年度の研究を開始することができた。
- ・ 生徒会執行部や専門委員会を主体とした取組の充実を図ったことで、自治の力の向上の一助にもなった。
- ・ 質問紙を用いた調査において、「自己肯定感」の低さが本校生徒の課題であったが、「物事を最後までやり遂げてうれしかったことはありますか」という項目のポイントが概ねどの学年も上がっており、学習への取組が少しずつ本校生徒の自信にもつながっていると考えられる。